TCM

東京音楽大学
大学院案内

2024

TCM
Tokyo College of Music Graduate School

Contents

学長・研究科長 Message	3
大学院音楽研究科	3
専攻・研究領域	4
行事予定・試験等日程	9
修士論文作成スケジュール	10
先輩からのメッセージ	11
Q&A	12

東京音楽大学大学院
〒 153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1
〒 171-8540 東京都豊島区南池袋 3-4-5
Tel.03-6455-2753

学長・大学院研究科長メッセージ

演奏・創作・研究について、さらにテーマを深めて極めていく場、音楽家としてさらに自立することを模索する場

東京音楽大学学長
研究科長
野平 一郎

皆さんが大学生活を通じて追究してきた演奏・創作・研究について、それらを総合しつつさらに個々のテーマを深め、対象を明確にして極める場、そして音楽家として社会の中でさらに自立することを模索する場、それが大学院です。大学という限定され、閉じられた社会の中で自らが指向する音楽や研究を響かせることも重要ですが、これからは、４年間の大学生活を通じてすでに皆さんが体験されてきたさまざまな社会とのつながりを活かしながら、さらに開かれた、より多様性に富んだ視点をぜひ持ってください。今日の多様な社会は、また変転する社会でもあります。一時も休んでいません。世界は広く、社会は開かれています。皆さんが持っている創造力、想像力を、どのようにしたら効果的にこの世界に発信できるのかが大きな課題となっていくでしょう。新たな感受性をもたらすには、そして社会との連携や調和をさらに求めるには、自分をどうしたらよりアピールできるのか… 課題は尽きません。言い換えれば、皆さんが音楽家として、一人の人間として、自分の言葉でこれからの新しい道を切り開いていく場、となるのが大学院での生活です。ぜひ東京音楽大学の素晴らしい教授陣、素晴らしい仲間たちと共に、未来を作り出す充実した大学院生活を送られることを願っています。

message

大学院音楽研究科

■ 修士課程

器楽専攻

■鍵盤楽器研究領域
- ピアノ
- オルガン
- チェンバロ
- 伴奏

■弦楽器研究領域
- ヴァイオリン
- ヴィオラ
- チェロ
- コントラバス
- ハープ
- クラシックギター

■管打楽器研究領域
- 管楽器
- 打楽器

■室内楽研究領域

声楽専攻

■独唱研究領域
■オペラ研究領域

作曲指揮専攻

■作曲研究領域
■指揮研究領域

音楽文化研究専攻

■音楽教育研究領域
■音楽学研究領域
■ソルフェージュ研究領域
■多文化音楽研究領域

■ 博士後期課程

音楽専攻

専攻・研究領域

器楽専攻

■ 鍵盤楽器研究領域

鍵盤楽器研究領域は、より高度な音楽芸術の教育研究と文化・社会に貢献する人材を育成するために、様々な取組みを行っています。質の高い実践的教育プログラムを有機的に展開、幅広い分野での活動を可能とするために、ピアニスト、作曲家の教員を中心に、声楽、弦楽器等の教員を含めた指導体制をとっています。

佐藤 俊

◉ ピアノ　チェンバロ　オルガン

きめ細かな指導による個人レッスン「器楽実習」のほか、楽曲への理解を深めるためのアナリーゼを中心とした「楽曲分析演習」、経験豊かな教授、演奏家から直接学べる「器楽特殊研究」、アナリーゼから演奏表現の技術を考え、他の楽器への理解を通して音楽的視野を拡げるための「室内楽実習」、語学、原書講読、海外からの招聘教授、ピアニストによる実技指導等、充実した授業が揃っています。１年次には必ず学生が主体的に演奏会を企画、運営する「院生コンサート試験」に出演、２年次の修了演奏試験と合わせて１時間程度のリサイタル・プログラムが可能となるようにしています。その楽曲研究の成果を論文あるいはプログラムノートとして作成し、２年間の研究の集大成として発表します。専攻実技レッスンと専門授業の連携によって、大学学部生より更に深く集中的に音楽を追求していきます。

在学中より学生の活動は多岐に渡り、独奏者としての国内外のコンクールや演奏会での活躍はもとより、近年は独奏者としての秀逸さを活かした室内楽奏者、伴奏者としての活躍も目立っています。

修了生は国内外で「独奏、共演できる演奏者として」また「演奏できる指導者として」活躍を続けています。

◉ 伴奏

伴奏はその需要の多さに較べて、専門的に学べる場所は限られています。本大学院の伴奏研究領域は、国内でも数少ない伴奏ピアニストを育成する教育機関として実績を上げてきました。本学からの進学だけでなく、他大学出身者の比率も高く、在籍者の年齢層もさまざまです。一度社会に出た後に、改めて学び直すため志願する者が多いのも特徴のひとつです。

カリキュラムとしては、指導担当教員によるレッスン「器楽実習」、鍵盤楽器研究領域共通の授業である「器楽特殊研究」、そして楽曲に対する深い理解を得るための「楽曲分析演習」が必修科目となっています。この三つの授業を中心に、ひとりひとりが学びたいものを専門的に研究するためのサポート環境が整っています。

大学院の在学期間は２年と非常に短いですが、学生はその間実践的なプログラムを懸命に学習し自らのものにしようとしています。修了後は数多くのステージにおける演奏や、学内外での教育サポートなど、その活躍は多岐にわたります。

いまこそ学究生活を謳歌しよう

■ 弦楽器研究領域

真の個性と自信を――大学院では、いままでの与えられてきた知識と技術の習得にとどまらず、専門分野において自ら研究課題を定め、目標に向かって積極的に探究することが求められます。

個性と客観性を持ち合わせた経験豊かな教員が、学生とともに情熱をもって研究課題に取り組み、学生の意欲に対し最大限サポートします。

具体的には、個人レッスン「器楽実習」のほか、弦楽アンサンブルを学ぶ「器楽特殊研究」、他の楽器との「室内楽実習」や「楽曲分析演習」等の授業を通して、奏者に必要な実践的な技術と専門的な知識を身につけることができます。

大谷 康子

■ 管打楽器研究領域

修士課程では、演奏経験豊かな教員から、情熱あふれる指導を受けることができる実技レッスン「器楽実習」のほか、「器楽特殊研究」「楽曲分析演習」の授業を通して、専攻レパートリーのアナリーゼ、作曲家の人物像はもちろん、作品の成立した時代背景（社会情勢）、（思想）他の芸術分野（美術）（文学）などにも目を向け、より深い演奏表現を目指します。模擬レッスン講座もあり、大学院生が、学部の後輩にレッスンし、レッスン後、良かった点、改良点などを教員と学生が一緒に議論し、大きな成果を収めています。また学部の学生のアンサンブルに参加し、アンサンブルがどのように構築されていくかを分析しながら、指導的な役割も果たしていきます。「室内楽実習」では、室内楽のレパートリーも広げ、演奏会形式での試験に臨むことになります。

最終的には、集大成として１時間のリサイタルを行う修士演奏での学位審査を受けます。その他、オーケストラ等で演奏する機会もあり、修了生は、オーケストラ、吹奏楽のプレイヤーや指導者等、幅広く活躍しています。

外囿 祥一郎

■ 室内楽研究領域

音楽性豊かな演奏家を育てるために、高いレベルの演奏者による編成の室内楽が重要な意味を持っています。高度な室内楽研究を実現するには、基本的に各人の演奏技術を向上させなければなりません。本領域においては、個々の専門楽器の技術的、音楽的な徹底研究を行います。また、自分の楽器だけではなく、いろいろな楽器についてもその特性に触れ、楽曲についても演奏に必要な実践的かつ学問的アプローチを行うことになります。室内楽の研究により音楽全般に対する理解を深めることは、分野を問わず演奏者として必要不可欠です。室内楽研究領域は、２名から６名の間で自由にアンサンブルを組んで志望することができます。各グループに適した柔軟なカリキュラムが準備され、修了試験も同アンサンブルで受けることが求められますが、その過程においては、自由な発想により様々な楽器の組み合わせで研究することができます。さらに、他の研究領域開設科目も履修することが可能であり、それぞれの研究テーマに即した環境が整えられています。

専攻・研究領域

声楽専攻

☆大学院音楽研究科声楽専攻は「独唱研究領域」と「オペラ研究領域」に分かれています。

服部 洋一

■ 独唱研究領域

「独唱研究領域」の学生は、個々人の音楽性や声にあった歌曲や宗教曲などをより腰を据えて探求することが可能です。個人レッスンのほか、各国の歌曲を専門とする担当教員による授業を受けられ、修士演奏では自らが選定したプログラムにより研鑽の成果を示します。

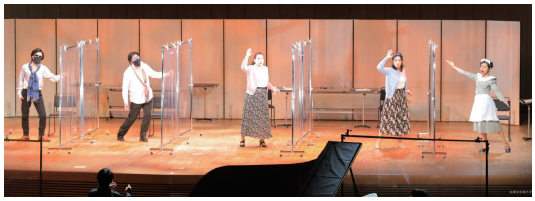
■ オペラ研究領域

「オペラ研究領域」は少人数選抜による集中的なカリキュラムにより、オペラを学ぶために最適な環境を用意しています。最大の特色は２年時に履修する「オペラ総合実習」です。学生各自がオペラの演目を選択し、一部抜粋したプログラムを構成し、上演します。個々の学生にそれぞれ指揮者、演出家、声楽家、コレペティトゥアから構成される本学教員がつき、演技および音楽に関して手厚い指導を受けることができます。

和のオペラの所作指導

☆年度の最初にキャスティングオーディションを実施しますが（募集は毎年とは限りません）、どちらの領域の学生も履修可能な、ヨーロッパや日本のオペラ作品を研究、演習を行い、試演会としての舞台を踏む授業（オペラ特殊研究）もあります。このように、大学院音楽研究科声楽専攻では、それぞれの学生の音楽性や興味・関心に合わせ、様々な方向性で学ぶ道を用意し、高い学習意欲を持つ学生の希望に応えられるものとなっています。

バレエ指導


＊コロナ感染対策を徹底し、
オペラ、合唱公演も行いました。

作曲指揮専攻

野平 一郎

藤原 豊

西村 朗

原田 敬子

有馬 純寿

細川 俊夫

■ 作曲研究領域

作曲研究領域では、自らの個性的な創作の基盤、ないしは起点となるべき課題を定め、自主性をもって能動的な研究活動、研究発表を行い、総合的な作曲能力の向上を目指します。

様々なジャンルに対応できる教員陣による実践的なゼミ形式の授業、個人レッスンを行っています。個人レッスン担当の教員を毎年自由に選択できるシステムがあるのも本学の特徴です。

作曲研究領域は 2018 年度より、従来の現代音楽中心の「芸術研究」と、各種メディアに対応した実践的な「応用研究」に分かれています。

「芸術研究」では、外国の演奏団体や教育機関などとの交流や研修の機会を通じて、社会性や国際性を育み、より幅広い作品発表の場を得ることで、自己のさらなる可能性を発見できると思います。

一方、「応用研究」では、社会の多様なニーズに即戦力として対応し得る、人材の育成を目指しています。

■ 指揮研究領域

大学院では、高度で機能的な指揮の技法や音楽に関する幅広い知識を学ぶだけではなく、総合的な人間力を高めることが求められます。指揮者の存在意義とは何かを問い直し、自己を見つめ、指揮者として自らに本当に必要なことは何かを追究していく力とともに、高い見識と教養を身につけ、多様な人々と豊かな関係を築いていくことを重視します。

大学院を修了した後、指揮者として幅広く活躍する人材になることを期待します。

音楽文化研究専攻

■ 音楽教育研究領域

音楽教育研究領域では、音楽科教員育成の枠組みにとらわれず、多様な音楽教育の場及び音楽活動の場を想定して、音楽と社会と人間との関わりについての研究を行なっています。教員の専門が音楽教育のみならず、文化政策、民族音楽、心理学、社会学と幅広いのも特徴です。このような学際的な研究環境で、互いに影響を受けながらテーマを決め、研究を深める2 年間を過ごすことができます。また学問的な研究とともに、選択で実技の履修ができ、個人レッスンを通して実技の能力を高めることもできます。

学生の専門も様々で、研究テーマも多種多様です。音楽教師としての経験を論文にまとめようと入学してくる社会人や、日本と母国との音楽教育や文化の比較研究を行なっている留学生もいます。修了後は、教員をはじめ、音楽出版社、音楽ホールなどに就職し、自らの個性を生かしながら社会で活躍しています。

■ 音楽学研究領域

音楽学は、音楽を学問的に探求し、学術的な言葉でこれを論じる魅力的な分野です。また、音楽学はグローバルなネットワークを持っていますから、自身のアイデアを練り上げる過程で世界中の仲間と議論することができます。

本学の音楽学研究領域には、多様なバックグラウンドをもった学生たちが集まってきます。学部で演奏を専攻してきたひとや、他大学で他の分野を専攻していたひとなど、それぞれが持つ経験を活かして、創造的な研究テーマを設定することが可能です。

私たちは、主体的な研究実践を重視しています。音楽学研究領域での学びを通じて培われる調査・考察・プレゼンテーションの能力は、修了後に様々な分野で活躍するための基礎となります。実際、過去の卒業生たちは研究機関や図書館、出版社、文化施設、一般企業など、多岐に渡る進路を選択しています。また、博士後期課程に進んでさらに高度な研究を行う学生もいます。優れた修士論文には、学会などで発表の機会が与えられますから、これをさらなる成長の励みにすることもできるでしょう。

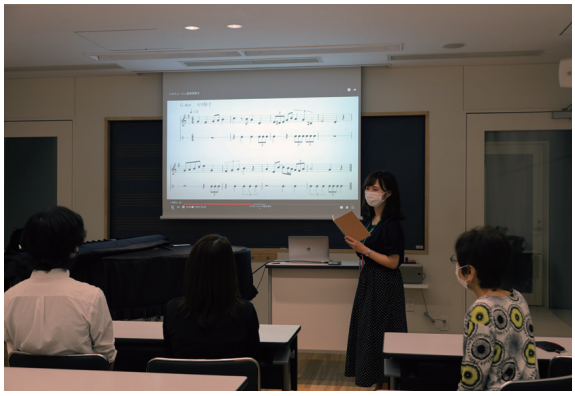
ぜひ、音楽学研究領域での学びに挑戦してください。ここで身につく能力や将来のキャリアにおいて、大きな成果を得ることができるでしょう。音楽学の学びを通じて、知識を深め、音楽の魅力を探求し、社会へ貢献する人材となりましょう。

専攻・研究領域

■ ソルフェージュ研究領域

ソルフェージュ研究領域では、自身の実技演奏や研究などに役立つ楽曲の総合的理解、把握、解釈を可能にする高度な読譜力の修得を目指します。具体的には、初見、移調、スコアリーディング等を中心としたソルフェージュ実技に加えて、和声学、対位法の習得、また多面的かつ実践的な楽曲分析と音楽様式の変遷への考察等が含まれています。ソルフェージュ教育に必要な課題作成や模擬授業を実践するだけでなく、音楽分野において有効な PC の活用方法も学び、将来を見据えたオンライン教育研究の一環として、ソルフェージュ授業動画の作成や教材研究も行なっています。

社会の様々な場において多様な音楽活動を展開できる人材を養成しており、多くの学生は修了後に、音楽高校、一般高校の教諭や講師として勤務するほか、音楽大学及びその付属音楽教室の講師として指導にあたっています。



■ 多文化音楽研究領域

多文化音楽研究領域は、多様な文化や民族性を背景とした世界観のもとに育まれてきた世界各地の伝統的な音楽文化を、現代社会における文化の多様性の視点から探求し、新たな音楽文化を創造し、発信していくことをめざす研究領域です。

日本を含む世界各地の伝統音楽を専門に研究する者が、互いの専門研究領域を学び合うことで、新しい音楽文化を創り出していきます。

●修士研究

修士研究は、３つの方向から選ぶことができます。

○理論研究：多文化の音楽文化を研究し、論文を執筆する。

○開発研究：多文化の音楽を現代社会に生かす企画・制作・プロデュースなどを開発する。

○演奏・創作研究：多文化の伝統と現代をクロスさせながら新しい演奏や新しい作品を創造する。

●教育内容

多彩な授業科目の中から、各自の修士研究の内容や方向に合わせて、理論と実技を自在に組み合わせながら学んでいきます。

・音楽文化研究としての日本音楽や民族音楽の講義や演習【多文化音楽研究演習１】

・アートマネージメントやメディア演習、作品制作のための演習【多文化音楽研究演習２】

・日本音楽を含む世界各地の伝統音楽の実技レッスン【多文化音楽実技実習】

＊「多文化音楽実技実習」開設科目（2023 年度）

アイヌ伝統音楽（トンコリ　ほか）

中国音楽（二胡、古筝、古琴、笛子）

キルギス音楽（コムズ　ほか）

モンゴル音楽（馬頭琴　ほか）

インド音楽（シタール）

インドネシア音楽（ジャワガムラン、ジャワ舞踊）

邦楽（箏、尺八、三味線　ほか）

多文化音楽研究領域　キックオフコンサート

行事予定・試験等日程

2023 年度修士課程 主な予定

2023 年	4 月　1 日（土）	入学式
	4 月　4 日（火）	修士 1、2 年ガイダンス　　～ 11 日（火）履修登録期間
	春学期授業日	**2023 年 4 月 5 日（水）～ 2023 年 7 月 24 日（月）**
	4 月 29 日（土）	［昭和の日］授業日
	7 月 24 日（月）	春学期　授業・レッスン終了
	7 月 25 日（火）	1 年修士論文ガイダンス
	7 月 30 日（日）～ 9 月 5 日（火）	夏期休業
	秋学期授業日	**2023 年 9 月 8 日（金）～ 2024 年 1 月 22 日（月）**
	10 月　8 日（日）～ 10 月 9 日（月）	芸術祭期間（授業・レッスンなし）
	12 月 22 日（金）～ 2024 年 1 月 8 日（月）	冬期休業
2024 年	1 月　9 日（火）	秋学期　授業・レッスン再開
	1 月 22 日（月）	秋学期　授業・レッスン終了
	2 月 28 日（水）	修了認定発表
	3 月 16 日（土）	修了式

試験等日程予定

2023 年	7 月上旬	修士演奏（独唱、オペラ研究領域：第 1 課題）
	7 月	室内楽（弦楽器・管打楽器）試験
	10 月上旬	修士論文提出（器楽、声楽、作曲指揮専攻）（2024 年度～ 7 月下旬に変更予定）
	9 月下旬～ 11 月	修士 1 年コンサート試験（鍵盤楽器研究領域）
	11 月上旬	オペラ特殊研究・試演会［院オペラ］
	11 月～ 1 月	修士論文審査・口述試問（器楽、声楽、作曲指揮専攻）
	12 月上旬	修士論文提出（音楽教育研究領域）
2024 年	1 月上旬	修士論文提出 （音楽学、ソルフェージュ、多文化音楽研究領域）
		修士作品提出（作曲研究領域）
	1 月	修士演奏（器楽専攻）
		修士演奏（独唱研究領域：第 2 課題）
		修士 2 年年度末試験（多文化音楽研究領域）
		修士 1 年年度末試験（管打楽器研究領域：演奏会）
		修士 1 年年度末試験（器楽、声楽専攻）
		修士 1 年年度末試験（多文化音楽研究領域）
		奨学金オーディション（鍵盤楽器研究領域 ピアノ・伴奏）
		科目等履修生年度末試験（器楽、声楽専攻）
	1 月中旬～下旬	修士論文口述試問（音楽文化研究専攻）
	2 月上旬	修士演奏（オペラ研究領域：第 2 課題）［修士オペラ］
	1 ～ 2 月	室内楽（弦楽器・管打楽器）試験

修士論文作成スケジュール

	1年生		2年生	
2023年度	実技専攻	音楽文化研究専攻	実技専攻	音楽文化研究専攻
4月	**ガイダンス**		**ガイダンス**	
	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅰ	〈修士論文指導科目〉 ・音楽教育学実習 ・音楽学実習 ・ソルフェージュ特殊研究 ・多文化音楽実習	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅲ	〈修士論文指導科目〉 ・音楽教育学実習 ・音楽学実習 ・ソルフェージュ特殊研究 ・多文化音楽実習
5月				音楽教育　中間発表（公開）
6月				**修士論文予定題目提出** **6/12（月）～16（金）**
7月	**1年修士論文ガイダンス** **7/25（火）**		**修士論文題目提出** **7/3（月）～7（金）**	音楽学　中間発表（公開）
8月				
9月				
10月	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅱ		**修士論文提出** **10/4（水）～6（金）**	**修士論文題目提出** **10/16（月）～20（金）**
11月			**審査・口述試問**	
12月				**音楽教育：修士論文提出** **12/5（火）～8（金）**
1月	**修士論文予定題目提出** **1/22（月）～26（金）**			**音楽学、ソルフェージュ、** **多文化音楽：修士論文提出** **1/9（火）～11（木）**
				1月下旬 **審査・口述試問**
2月				
3月				要旨発表（＋要旨集作成）

2024年度予定	実技専攻	音楽文化研究専攻
4月	**ガイダンス**	
	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅲ	〈修士論文指導科目〉 ・音楽教育学実習 ・音楽学実習 ・ソルフェージュ特殊研究 ・多文化音楽実習
5月	**修士論文題目提出** **5月下旬**	音楽教育　中間発表（公開）
6月		**修士論文予定題目提出** **6/10（月）～14（金）**
7月	**修士論文提出** **7月末**	音楽学　中間発表（公開）
8月		
9月		
10月		**修士論文題目提出** **10/15（火）～18（金）**
11月	**審査・口述試問**	
12月		**音楽教育：修士論文提出** **12/3（火）～6（金）**
1月		**音楽学、ソルフェージュ、** **多文化音楽：修士論文提出** **1/7（火）～10（金）**
		1月下旬 **審査・口述試問**
2月		
3月		要旨発表（＋要旨集作成）

message

藤平 実来 器楽専攻　鍵盤楽器研究領域（ピアノ）

東京音楽大学卒業。同大学院修士課程器楽専攻鍵盤楽器研究領域(ピアノ)２年に特別特待奨学生として在学中。
第20回東京音楽コンクールピアノ部門第２位。第91回日本音楽コンクールピアノ部門第３位。2023年度宗次エンジェル基金奨学生。

「自分と深く向き合える濃密な２年間」

大学院では専門的且つ実践的な音楽力を育むことができます。

国内で一流の演奏家でもある先生方に授業をしていただく「器楽特殊研究」や「器楽実践演習」、「楽曲分析演習」では、プレイヤーとしての高度な思考力や演奏法を間近に学ぶことができ、今後の私の音楽人生における財産になったと確信しています。

何より実技レッスンが一番の魅力だと思います。学部生の頃から東京音楽大学のレッスンが充実していることは身に沁みて感じておりましたが、大学院に進学してからのレッスンでは学生としてではなく、一人の音楽家としてより深くご指導いただきました。素晴らしい良質な環境で音楽を学ばせていただけることに、日々感謝しております。

大学院では学生一人ひとりに親身になって向き合ってくださいますので、自分の理想に向けて道が切り開けるはずです。

東京文化会館 第20回東京音楽コンクール 本選 ©堀田力丸

藤野 奏 音楽文化研究専攻　ソルフェージュ研究領域

東京音楽大学卒業。同大学院修士課程音楽文化研究専攻ソルフェージュ研究領域２年に在学中。
第８回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 自由曲コース高校生部門金賞。
第10回みおつくし音楽祭 大阪クラシックコンクール ピアノ部門 大学生一般の部第２位、併せて音楽監督賞。受賞披露演奏会に出演。

日々の積み重ねが現在を経て、未来を創造する

ソルフェージュ研究領域の在学生と聞くと、どのようなことに取り組んでいると想像するでしょうか？

本研究領域では、ソルフェージュ教育の現場を想定した模擬授業を毎週実施するほか、聴音・視唱課題等の作成に取り組んでいます。また一研究者、並びに一表現者として日々研鑽を積んでいます。

“正解が一つでない芸術を自分の言葉で言語化し、他者に伝えること”を常に大切にしています。修士論文は勿論のこと、PC を利用したプレゼン、授業レポートなど、調べて得た知識から自分の考えを発展させ、発信する連続で仕上げていきます。私は学部２年次に、３、４年生を対象とした音楽学課程に合格し、ゼミナールと卒論の指導を受けたことで、この重要性に気づきました。そして現在修士課程で、さらに思案をめぐらせています。

基盤となる知見も必要で、ハイレベルな内容が求められますが、先生方も熱心にご指導くださいますし、設備の整った環境で学べますので、たいへん充実した学生生活を送っております。

音楽活動をどのように展開していくか、そして芸術に携わっていくか？　本学大学院の授業にはそのヒントが豊富にちりばめられています。

Q & A

入試について

Q 共通科目試験はどのような内容ですか？

A 全専攻共通の外国語、音楽史、面接の試験です。詳細は募集要項をご覧ください。社会人及び外国人選抜受験者は、免除される場合があります。

Q 過去の問題はどこで入手できますか。

A 来学して直接閲覧するか、ホームページ「入試案内（大学院）」の修士課程過去問請求フォームより請求してください。過去問請求フォームより請求の場合は、著作権法上公開できない部分があります。

・来学の場合：池袋キャンパス A 館 1 階または中目黒・代官山キャンパス 1 階教務課で閲覧できます。閲覧時間は 9:00-17:00 です。
（夏期・年末年始は休業期間等がありますので、事前にお問合せください）

Q 実技試験の練習用に部屋を借りることはできますか？

A 入試期間中、実技試験日までの毎日、個人練習室を貸し出します。詳細については出願後にお知らせします。

Q 音大卒業後、音楽を家で教える仕事をしていますが、社会人特別選抜に出願できますか？

A 事前に出願資格審査を行います。2023 年 9 月 12 日までに所定の申請書の提出が必要です。詳しくは入試課までお問い合わせください。

入学後について

Q 専攻の指導教員はどのように決まりますか？

A 合格者に希望教員アンケートを実施し、その希望をもとに決定します。ただし、ご希望に沿えない場合もあります。

Q 奨学金はいつ手続きをすればよいですか？

A JASSO の奨学金申込については入学後に案内します。大学の給費奨学金は、入学試験の優秀者に給付され、申し込みは不要です。

Q 在学中どのような試験がありますか？

A 実技試験については P. 9 を参照してください。

Q 修士論文は必修ですか？

A 作曲指揮専攻および音楽文化研究専攻（音楽教育、音楽学、ソルフェージュ、多文化音楽）は修士論文の提出が必須です（ただし、ソルフェージュ研究領域は課題集及び解説論文の提出でも可）。
その他の専攻の修士論文の提出は任意です。論文執筆から審査までのスケジュールは p.10 を参照してください。

Q 修士課程の学生専用の練習室はありますか？

A 池袋キャンパスに 6 部屋、中目黒・代官山キャンパスに 3 部屋あります（内 1 部屋はホール楽屋と兼用）。
その他、打楽器の練習室があります。また、学部と共同の練習室も利用可能です。

Q 教員免許状について

A 既に中学校教諭一種免許状（音楽）高等学校教諭一種免許状（音楽）を取得済みで（所要資格を満たしている場合を含む）、修士号を得るとともに、所定の単位を修得した場合、修了時に専修免許状を取得することができます。

東京音楽大学大学院学則より抜粋

第 15 条　教育職員免許状の種類及び免許教科は、次の表のとおりとする。

研究科（課程）	専攻	免許状の種類	免許教科
音楽研究科（修士課程）	器楽専攻	高等学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状	音楽
	声楽専攻		
	作曲指揮専攻		
	音楽文化研究専攻		

2　教育職員免許状を取得するための授業科目及びその履修方法については、別に定める。

〈参考〉就職実績

https://www.tokyo-ondai.ac.jp/career#career3

Tokyo College of Music Graduate School

Master of Music Degree Program

- Keyboard Instruments　Piano/Organ/Harpsichord/Collaborative Piano
- String Instruments　Violin/Viola/Cello/Contrabass/Harp/Classical Guitar
- Winds and Percussions　Flute/Oboe/Clarinet/Bassoon/Saxophone/Horn/Trumpet/Trombone/Tuba/Euphonium/Percussion
- Chamber Music
- Vocal Solo　• Opera
- Composition　• Conducting
- Music Education　• Musicology　• Solfège　• Multicultual Music

Doctoral Program

- Music

http://www.tokyo-ondai.ac.jp/graduate_school/